

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	300C	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.550	△RG	0.025	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：300C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：505C

フレアーの幅 インチ

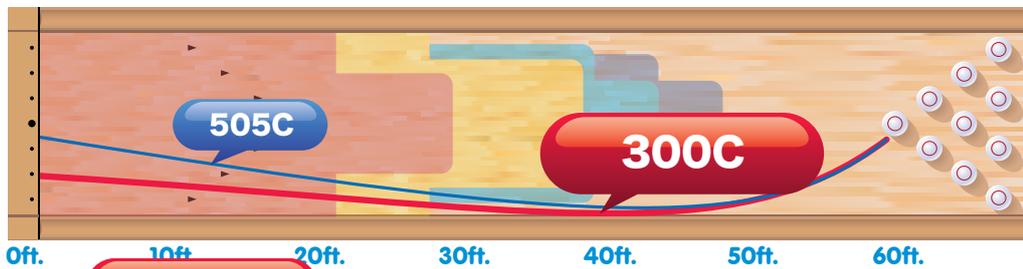
PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

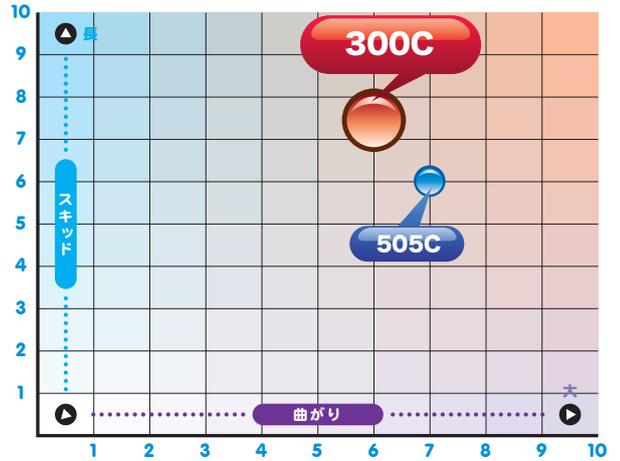
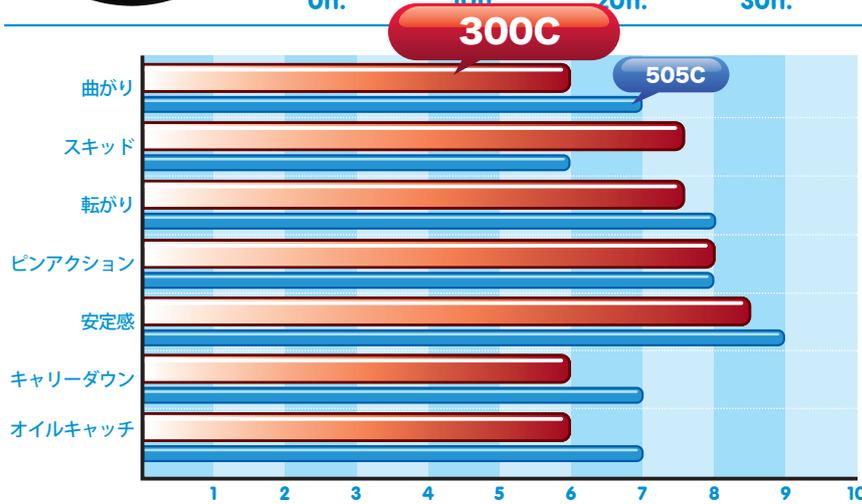
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

トラック社のナンバー表記による性能の分類。あらゆるコンディションにマッチさせるべく、カバーストックもすでに9・7・5・4と4つに分類され発売されました。今回トラック社は更なる領域を求め、ミディアムライト〜ドライ用でシリーズ中最もスキッドを確保できるこの300Cをリリースしてきました。

この300Cの特徴はまず”3”というカバーストックの強さであること。そしてトラック社ナンバー表記システムになってから初めてとなるシメトリックコア(対称コア)の二つと言えるでしょう。今回この300Cの開発の背景には505Cの性能がが基準になっており、505Cのリアクションイメージそのままに板目3枚ほど外目を投げられる、または次に使えるようにカバーのケミカルとコアで調整をしていることです。LMP GEN 1カバーストックの抽出とトラック社初のシメトリックコアの組み合わせの背景には、今までのように同一コアを使い性能を合わせる理念から脱却し、新たな方向性を導きだした第一歩でもあります。

この300Cは適応コンディションをミディアムライト〜ライトに仕上げられています。ポテンシャル変更における表面加工は最小限に抑え、トラック社開発コンセプト通り”3”の領域で使用することをオススメ致します。

また300Cは価格帯に優れており、現行で発売されているミッドプライスを下回る32,000円台(小売価格)で高性能なボールを手にすることができます。

スピードが不足している方やトラック社で最もスキッドを求めている方にオススメで、リアクションイメージが変わらないことから、505Cなどが厚めに入ってきたり、ラインが取れなくなってきた時に、同じラインを使用して簡単にアジャスト出来るのも特徴のひとつです。

特記事項

トラック社ナンバー表記による分類に新たに”3”のパフォーマンスが加わりました。505Cのイメージで408Cよりもスキッドが確保できます。